

令和 6 年 6 月 12 日現在

機関番号：32641

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2020～2023

課題番号：20K00453

研究課題名（和文）量的分析を用いた影響研究 - 19世紀イギリス・ロマン派の文学共同体のダイナミズム

研究課題名（英文）Exploring Influence through quantitative analysis: The Dynamics of Literary Community in Nineteenth-Century English Romanticism

研究代表者

橋本 健広 (Hashimoto, Takehiro)

中央大学・国際情報学部・教授

研究者番号：70566546

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,100,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、データ可視化や語彙の出現頻度といった量的分析を用いて、19世紀イギリス詩・演劇作品にみられる過去の作品からの影響と中東趣味の影響について、フランス革命やグローバル化といった変容する時代に特有と思われる文学的傾向を模索した。過去の作品の影響として、17世紀の作品ミルトンの『失樂園』が19世紀のコールリッジの詩にどう影響を与えているか、また中東趣味の影響としてベックフォードの『ヴァセック』がバイロンの詩にどう影響を与えているかを、共通する語の分布に着目して調査した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の目的は、19世紀イギリス・ロマン派という文学の一潮流を量的分析によって俯瞰して大局をつかむことであった。イギリス文学研究では、作品間の影響を調べることが一つの大きな研究テーマである。テキストや歴史的事実などの外部情報をもとに研究者の緻密な読みをもとに影響を考察する方法が一般的であるが、本研究ではデジタル・ヒューマニティーズの手法を用いて、量的な数字を用いて影響を考察した点が新しい。用語の出現頻度と分布を量的に計算することで、過去の17世紀の詩や多文化に属する東洋趣味の作品が19世紀の作品に伝播する様子を俯瞰することができ、質的分析へとつなげたことが本研究の学術的意義である。

研究成果の概要（英文）：This study examines the influence of previous texts and oriental texts in nineteenth-century English Romantic texts, and explores specific literary trends in the changing era of the French Revolution and globalism. The study examines the distribution of common words to show how Milton's seventeenth-century text, Paradise Lost, influenced Coleridge's nineteenth-century texts, and how Beckford's oriental text, Vathek, influenced Byron's poems.

研究分野：英文学

キーワード：イギリス文学 影響 デジタル・ヒューマニティーズ 人文情報学 量的分析 ロマン派

1. 研究開始当初の背景

19世紀イギリス・ロマン派の時代の詩や演劇作品は、激動する時代や社会の変革を背景として、過去あるいは他の文化に属する様々な文学作品の影響を受けて独自の文学的潮流を作り上げた。特に、過去あるいは多文化と19世紀ロマン派の時代のテキスト間における詩の影響についての研究はこれまで様々に試みられている。本研究は、こうした影響を、詩の持続可能性と多文化共生という観点をキーワードとして、単語の頻度やデータ可視化を援用した量的分析を用いて探求しなおすものである。Lowes(*Xanadu*)、Magnuson(*Lyrical*)等の示した原典研究、剽窃、影響、間テクスト性、詩的対話、詩人間の交流からなる影響を、本研究で詩の持続可能性と呼ぶ詩的空間の時間的文学的広がりの中で捉えなおし、また影響を"symbiosys"(McFarland "Symbiosys")といった詩人どうしの共生や"conviviality"(イリイチ『コンヴィヴィアリティ』)といった社会における共同体の構築のダイナミズムという観点でとらえることで、多文化共生による文学上の共同体という文学作品のダイナミズムをみることで、研究開始当初の背景である。

2. 研究の目的

本研究の目的は、データ可視化および語彙の出現頻度といった量的分析を用いて、19世紀イギリス詩・演劇作品にみられる他の時代や文化圏に属する作品の影響を、詩の持続可能性と多文化共生という観点から考察し、フランス革命やグローバル化といった変容する時代に特有と思われる文学的傾向を模索するものである。過去の作品が19世紀ロマン派の作品の中にどのように影響を与えているか、また他の文化圏に属するテキストが19世紀ロマン派の作品にどう表されているかといった大局的な概要をみることで、詩的空間を時間的広がりの中でとらえなおし、また共同体が構築されるダイナミズムを捉えることで、19世紀イギリス・ロマン派研究に新しい知見をもたらそうとした。

3. 研究の方法

(1) 研究の方法は、データ可視化および語彙の出現頻度といった量的分析に基づき、質的分析すなわちテキストの読みにつなげることで、19世紀イギリス・ロマン派という文学の一潮流を俯瞰して大局をつかむことである。詩の持続可能性の影響の研究においては、17世紀詩人ジョン・ミルトンの『失樂園』という過去の作品とサムエル・テイラー・コウルリッジの諸作品という19世紀ロマン派の詩人の作品群との間で、用語の出現頻度をtf-idfにより重み付けし、用語文書行列を作成してコサイン類似度をとることで、過去と19世紀ロマン派の作品間の類似度を調べた。過去の作品がどの程度19世紀ロマン派の作品群と似通っているかをみることで、影響の分布の度合いを示した。その際、各作品の読解を通じて、影響があるといわれてきた作品のみならず、新規に影響が見出された作品があることを確認した。

(2) 多文化共生の影響の研究においては、中東趣味において19世紀ロマン派の作品に多大な影響を与えたとされる作品であるウィリアム・ベックフォードの『ヴァセック』[*Vathek and Other Stories*]およびイナーヤトゥッラーの『バハーリ・ダーニシュ』[*Bahar-Danush or, Garden of Knowledge*]を起点として、『ヴァセック』や『知識の春』にみられるペルシア語由来の語彙を用いて、ジョージ・ゴードン・バイロンおよびトマス・モアの諸作品との間にみられる用語の重なりを、用語の出現頻度間でコサイン類似度をとることで選り示すことで、他の文化圏に属するテキストが19世紀ロマン派のテキストに現れるさまを概観し、中東趣味の文学共同体が構築されるダイナミズムを考察した。

4. 研究成果

(1) 橋本(『失樂園』)において、コウルリッジの諸作品にみられるミルトンの『失樂園』の影響について、詩作品の類似度を可視化するという量的方法で解釈を試みる『失樂園』らしさと『失樂園』すべてという基準を用いて、コサイン類似度による表とグラフを使用して、『失樂園』とコウルリッジの詩作品への影響について、類似度を可視化して量的方法による分析と質的な解釈を試みた。結果として、「去りゆく年へのオード」、「シャモニー谷にて夜明け前の賛歌」、「極みにあるもの」、「宗教的瞑想」、「独り居ていただく不安」、「失意のオード」、「さよなき鳥 - 会話詩」といった、コウルリッジの少なくとも17の詩に『失樂園』の影響がみられた。新たに影響があると解釈される作品が認められるとともに、コウルリッジが創作活動を行った時期全般にわたって『失樂園』が色濃く反映されていることがわかった。

詩的持続可能性という点から、過去の詩がどのように19世紀ロマン派の作品に影響を与えるかという点を見ると、詩人の創作活動の全般にわたって強く影響を与えているということができるだろう。このような分析によって、テキストを精読して解釈する文学研究に、数字を用いたテキスト群全体を俯瞰するという新しい視点を提供したといえる。

(2) 橋本(『ヴァセック』; 『ムア』)において、バイロンの諸作品にみられる『ヴァセック』の影響と、ムアの諸作品にみられる『バハーリ・ダーニシュ』の影響を、語彙の重なりを用語の出現頻度間でコサイン類似度をとって選り示すことで、19世紀ロマン派の作品におけるペルシ

ア語の影響を語彙の分布の観点および質的な読みの解釈を通して調べた。バイロンの 18 件の詩にみられる『ヴァセック』の影響は、長編詩が選り示される可能性が高いこと、一時期を除き文化の外部のものとしての目で描かれていることがわかった。またムアの 50 件の詩にみられる『バハリー・ダーニシュ』の影響は、広範にわたる多文化の影響を示し、東洋の言葉が異質な他者を示すために、またすでに自明のものとなった自国の文化を示すために用いられていることがわかった。

多文化共生という観点から文学共同体のダイナミズムを考えると、多文化の用語が外国語のまま英語圏に導入され、かつ「ペリ」といった一部の語句は明らかに多文化由来であるものの自国の文化に自明のものとして取り入れられていることがわかる。本研究における量的分析を通して、東洋の文化が当初異国情緒を示す外国語として導入され、一部はそのまま自国の文化に取り入れられていくその過程をみることであったといえる。

(3) 上記二つの研究は、詩的持続可能性と多文化共生という観点からテキストの遠読を行い、19 世紀ロマン派の作品におけるある潮流を俯瞰する研究であった。文学の影響研究においてより期待されるのは、テキスト間の内容的な影響を調べる量的研究手法であろう。そこで橋本（"Borderers"）において、ワーズワスとコウルリッジの劇詩における互いの影響を、詩行を細かく分け、テキスト群の用語文書行列のコサイン類似度を計算する手法で、選り示す研究を行った。その結果、いくつかの似通う詩行が選り示され、質的な解釈をふまえて、影響あるテキストとして確認ができた。このような手法は今後の量的手法を用いた影響研究に、遠読から精読へと向かう新規の知見をもたらすものである。

<引用文献>

- Beckford, William. *Vathek and Other Stories: A William Beckford Reader*. Edited by Malcolm Jack, William Pickering, 1993.
- Byron, George Gordon. *The Works of Lord Byron*, [Byron's Poetical Works]. 7 Vols, edited by Ernest Hartley Coleridgey, a new, revised, and enlarged edition, John Murray, 1899. Project Gutenberg, www.gutenberg.org/ebooks/author/1708
- Coleridge, Samuel Taylor. *The Collected Works of Samuel Taylor Coleridge: Poetical Works*, III, Plays, Part I. Ed By J. C. C. Mays. Princeton UP, 2001.
- , *The Complete Poetical Works of Samuel Taylor Coleridge*. Ed. Ernest Hartley Coleridge. Clarendon, 1912. 15 September 2020. *The Complete Poetical Works of Samuel Taylor Coleridge: Vol I and II*. June 11, 2009 ed. Project Gutenberg. www.gutenberg.org.
- 橋本健広. (2021). 「コウルリッジの作品にみられる『失樂園』の影響 類似度の可視化を用いた一考察」『イギリス・ロマン派研究』第 45 号, 17-36.
- Hashimoto, Takehiro. (August 15th, 2022). Osorio and The Borderers: The poetic dialogue in quantitative analysis. Paper presented at Wordsworth Summer Conference 2022, Rydal Hall(Ambleside, England).
- 橋本健広. (2022 年 10 月 16 日). 『バイロンと『ヴァセック』 語句の関連にみる影響の伝播の一考察』. イギリス・ロマン派学会第 48 回全国大会（於松山大学）にて発表.
- 橋本健広. (2023). 「トマス・ムアの詩にみられるペルシアの影響 - コサイン類似度による量的分析 - 」『国際情報学研究』第 3 号, 71-86.
- イリイチ, イヴァン. 『コンヴィヴィアリティのための道具』. 渡辺京二・渡辺梨佐訳. 筑摩書房, 2015.
- ‘Ināyat Allāh, Shaikh. *Bahar-Danush or, Garden of Knowledge: An Oriental Romance: Translated from the Persic of Einaiut Oollah by Jonathan Scott*. translated by Jonathan Scott. J. and W. Eddowes, 1799. [1651]. 3 Vols. HathiTrust, babel.hathitrust.org.
- Lowes, John Livingston. *The Road to Xanadu: A Study in the Ways of the Imagination*. Princeton UP, 1927.
- Magnuson, Paul. *Coleridge and Wordsworth: A Lyrical Dialogue*. Princeton UP, 1988.
- McFarland, Thomas. "The Symbiosis of Coleridge and Wordsworth." *Studies in Romanticism*. Vol. 11, No. 4, 1972, pp. 263-303
- Moore, Thomas. *The Complete Poems of Sir Thomas Moore: Collected by Himself with Explanatory Notes*. E-text by Charles Aldarondo, Tiffany Vergon, Robert Connal, and the Online Distributed Proofreading Team. Project Gutenberg, 2003. online. Gutenberg, www.gutenberg.org/ebooks/8187
- Wordsworth, William. *The Borderers*. Ed by Robert Osborn. Cornell UP, 1982.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 橋本健広	4. 巻 3
2. 論文標題 トマス・ムアの詩にみられるペルシアの影響 - コサイン類似度による量的分析 -	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 国際情報学研究	6. 最初と最後の頁 71-86
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 橋本健広	4. 巻 45
2. 論文標題 コウルリッジの作品にみられる『失楽園』の影響 類似度の可視化を用いた一考察	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 イギリス・ロマン派研究	6. 最初と最後の頁 17-36
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 橋本健広	4. 巻 1
2. 論文標題 詩人の成長と初期の詩の影響：クラスタ分析によるコウルリッジの初期の詩と後の詩の関連の考察	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 国際情報学研究	6. 最初と最後の頁 117-130
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計5件（うち招待講演 0件/うち国際学会 1件）

1. 発表者名 橋本健広
2. 発表標題 パイロンと『ヴァセック』 語句の関連にみる影響の伝播の一考察
3. 学会等名 イギリス・ロマン派学会第48回全国大会（於松山大学）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 橋本健広
2. 発表標題 コウルリッジの作品にみられる『失楽園』の影響 類似度の可視化を用いた一考察
3. 学会等名 イギリス・ロマン派学会第46回全国大会（オンライン）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 橋本健広
2. 発表標題 人文学と情報
3. 学会等名 関東学院大学経済経営研究所プロジェクト「AI -人間と社会-」12月例会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Hashimoto Takehiro
2. 発表標題 Osorio and The Borderers: The poetic dialogue in quantitative analysis.
3. 学会等名 Wordsworth Summer Conference 2022, Rydal Hall (Ambleside, England). (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 橋本健広
2. 発表標題 イギリス文学における精読と遠読：デジタル・ヒューマニティーズ研究の方法論
3. 学会等名 日本英文学会関東支部第23回大会（2023年度秋季大会）シンポジウム1 イギリス文学部門「文学研究とデジタル・ヒューマニティーズ」（於実践女子大学）
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------